

みんなそろって記念撮影、緊張気味の顔、顔・・・



再会喜び親睦深める

総会開催

岡山観一同窓会の本年度総会・懇親会が6月30日、岡山駅前のサンビーチ岡上で開かれ、会員35人が参加。「第2回史跡めぐり」の実施などの事業計画を決め、役員改選で新たに尾崎美樹さん(昭55年卒)を理事に選任しました。懇親会では同期生や先輩、後輩が久しぶりの再会を喜び合い、にぎやかに会食しながら親睦を深めました。

浜田香川県知事から祝電

総会は、佐川弘治郎会長が「昨年は事務局を複数化するなど体制を強化した。その結果、初めて広報紙を発行し、山陽新聞に総会の記事、写真を掲載するなど広報が充実、初の史跡めぐりを行うなどの活動活発化につながった。みんなで力を合わせ会員を増やしていきたい」などと挨拶し開会しました。来賓は4人で、このうち三宅昭二本部同窓会長、香川泰造校長、藤田修一京阪神支部幹事から、各地の同窓会の活動や高校の現状などを紹介するご挨拶を頂きました。もう1人の来賓、真鍋茂明本部事務局長のお名前を紹介し、続いて浜田恵造香川県知事(昭46年卒)からの祝電が披露されると、大きな拍手が沸きました。



高らかに校歌を歌う参加者

理事を増やした役員改選や事業計画案の討議に移り、今年3月に実施して好評だった「史跡めぐり」を本年度も来年3月に開くことを決めました。その際、案内役を務めた赤磐市の高畑富子さん(昭43年卒)が当時のスライドを映しながら、同市内の遺跡について説明しました。

- 岡山観一会役員**
- <顧問>
 - 松浦 良行 (S19卒)
 - 玉井 徹 (S29卒)
 - 床田 弘幸 (S29卒)
 - 河合 京子 (S35卒)
 - <会長>
 - 佐川弘治郎 (S40卒)
 - <副会長>
 - 石井 成毅 (S31卒)
 - 久保 恭宏 (S33卒)
 - 片山 泰弘 (S36卒)
 - 若林みどり (S39卒)
 - 尾崎 敏文 (S55卒)
 - <理事>
 - 高坂つた子 (S30卒)
 - 真鍋 五男 (S38卒)
 - 小西 康夫 (S41卒)
 - 宇賀 博 (S44卒)
 - 高橋 誠 (S45卒)
 - 大平 正典 (S47卒)
 - 秋山 博正 (S51卒)
 - 尾崎 美樹 (S55卒)
 - 西宇 建雄 (S59卒)
 - 吉田 卓央 (H元 卒)
 - <事務局>
 - 滝本 清文 (S40卒)
 - 小出 博 (S43卒)

平成25年度 事業計画

1	総会・懇親会	6月30日
2	広報誌作成・全会員に送付	8月
3	青春会	11月16日(土) (時間、会場未定)
4	役員会	26年3月(日時、会場未定)
5	史跡めぐり	3月(日時、場所未定)

記念撮影の後、懇親会へ。この会を盛り上げるために毎年参加してくれる観音寺市の前川宗正さん(平3年卒)の絶妙の司会で進行。酒を酌み交わしながら話が弾み、初参加者のスピーチもあって、各所で歓声が上がっていました。

最後に三豊中校歌、観一校歌に続いて戦後数年間歌われた「学園の歌」も斉唱して同窓の絆を強め、尾崎敏文副会長(昭55年卒)の挨拶で閉会しました。

○ 今年も山陽新聞ちまた欄の「集い」に、この日の記念写真を送りました。9月以降、同紙を注目してください。



会長
佐川 弘治郎

総会参加増にご協力を

会員の皆様、今年も猛暑の夏ですが、いかがが過ぎ去りでしょうか。平素より、岡山観一同窓会の活動にご理解・ご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

さて、私が会長を仰せつかりまして1年が過ぎました。これまでに役員会や事務局会を開き、総会の毎年開催など事業の新設と内容の充実を図ってまいりました。これらは会員の皆様から好評との声が聞かれ、関係の方々に感謝しているところです。これからも、皆様が一層楽しく、参加してみたいと思える取り組みにしていきたいと考えております。

特に、すべての基盤となる総会は大切です。総会は、若い年齢層の参加が伸びず、横ばい傾向にあります。参加者が増えて、会員相互の懇親が深まること、が他の事業の魅力をも高め、参加意欲につながるものと思います。是非、お知り合いの方と声をかけ合って、参加者増にご協力をお願いいたします。

最後に会費の納入に関するお願いです。会費の納入状況は約45%（110人分）です。未納の多くは「つい忘れてしまって」ではないかと思われまますので、ちょっと留意されて、ご協力をよろしくお願いします。

会員の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

熊山遺跡の前でパチリ



考古学の原点は観一

高畑富子（昭43年卒）

平成25年3月16日、岡山観一会青春会「赤磐史跡めぐり」が行われました。

当日は、香川県から地歴部の恩師、同級生、後輩も来て下さり、夢の様な一日でした。

私が、考古学に興味を持ったのは、観一の地歴部にいた時です。昭和41年11月、母神山黒島林一号古墳（観音寺市池之尻町）の発掘に参加しました。土、日曜日の2日間の発掘でした。地歴部から30人の参加があったそうです。

古墳は、簡易保険郵便年金福祉事業団

赤磐史跡めぐり

3月16日、青春会で「赤磐史跡めぐり」を催しました。当日は暖かい日和に恵まれ、大先輩の松浦良行氏（昭19年卒）をはじめ、故郷・観音寺から3人の参加を得て、総勢19人でした。赤磐市山陽郷土資料館で学芸員・高畑富子氏（本会会員）の説明により赤磐市古代史資料を見学した後、国指定

による加入者ホーム建設のため、調査の後破壊される事になっていました。

古墳が壊され、無くなってしまおうということが、私の気持ちを暗くしました。

校舎のベランダから古墳のある方向を見て、保存することは出来ないのかと思いました。市長さんに談判すれば残すことが出来るのではないだろうかなど考えました。

あの時の空間は、今も鮮明です。

その後、大学では、考古学同好会を立ち上げ、高松市茶臼山古墳（前方後円墳）、津頭東古墳（現綾川町）、石清尾古墳群（高松市）等の発掘に参加しました。

昭和47年、大学を卒業し、考古学に従事している夫と結婚して岡山に来ました。岡山では、中国縦貫道建設に伴う小中遺跡（勝央町）の発掘を行いました。

そして、昭和53年、当時の山陽町に居住し、『山陽町史』『熊山町史』等の編纂に関わり、平成4年から山陽町郷土資料館（現赤磐市山陽郷土資料館）

史跡の「熊山遺跡」、前方後円墳「両宮山古墳」、そして「備前国分寺跡」を探索。参加者は説明を熱心に聴き、考古学の世界を堪能していました。途中、熊山遺跡展望台でお弁当を開き、会話を弾ませて親睦を深めました。（小出博）

に勤務するようになりました。

観一を卒業して45年目の今年、観一ゆかりの方々が赤磐市を訪ねて下さり、思いも寄らない、懐かしい、うれしい、あたたかい時間を過ごさせていただきました。

（赤磐市山陽郷土資料館学芸員）



参加者に史跡の説明をする高畑さん（右）